

学校重点目標

評価まとめ

- 1 不断の授業改善 ①翔陽スタンダードの定着 ・授業アンケートや公開授業の有効活用
- 2 積極的な生徒募集 ①チーム翔陽で取り組む ②翔陽生が活躍する姿をできる限り見てもらう。
- 3 全教職員による魅力化・地域連携の推進 ①「益田市未来の担い手育成コンソーシアム」の構築
②県内企業への就職率の向上と県内大学への進学者の促進
- 4 20周年事業の準備

令和6年度 各分掌等の重点目標及び具体的目標

A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
総務部		安全教育の推進と防災意識の高揚	防災意識の高揚を目指し、災害時に対応できるよう効果的な避難訓練を実施する。	実際に即した避難訓練を実施できたと答えた生徒・教職員の割合	A 90	B 80	C 80	A 生徒95.0 教員88.5 平均91.7	・避難後の報告の仕方を工夫する。 ・放送音量の確認。	A
	3	広報活動の充実 (家庭や地域への情報発信)	学校通信・学校新聞の充実、メール発信とホームページの更新を積極的に行う。	学校通信、ホームページの更新をそれぞれ、10回以上行う。(概ね月1回以上、合わせて20回以上)	20	15	15未満	A 更新20回 通信全10回発行	・HP更新は全167回、そのうち20回を総務部で更新。年度当初の更新を早くすることが課題。 ・学校通信については、外部への発信のみ行っていたが、各クラスへの配布・教職員へもメールにて報告する。	A
教務部	1	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・「指導の重点」「授業チェックリスト」を活用した授業改善計画 ・授業公開、授業互見の活性化 ・「授業アンケート」の項目見直し	・教員アンケート「私は授業改善に取り組んでいる」 ・生徒アンケート「主体的・対話的で深い学びが実現できた」	3.5点以上	3.0点以上	3.0点未満	B	機能不全の授業互見(見学6名・公開5名)を充実させるべく、次年度は互見週間を設定予定。フォームによる授業アンケートで先生方の負担をなくしたが、回答率の低さや実態把握しずらさなどの課題が残った。	B
	2	高校の魅力化と生徒募集の推進	・学校案内や学科紹介の資料刷新 ・進路説明会やオープンスクール、部活動体験の充実	・益田市市内9校に在籍している405名の中学3年生のうち本校に入学した生徒の割合	30%以上	28%以上	28%未満	122名以上ならばA 114名以上ならばB 113名以下ならばC	高校入学者選抜制度改革に伴い、高校の魅力化・特色化の推進がさらに重要となった。少子化が進み、入学志願者の確保が難しい中でも、定員割れを起さない生徒募集の工夫や魅力の発信、他校との差別化が最大の課題である。	B

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
生徒部	1	生徒育成に向けた教職員の協力体制の充実	・全教職委員による日常の生徒指導への関りの充実を図る。 ・生徒主体の活動になるように、生徒会、各種委員会活動における情報の共有、事前準備を充実させる。	(教員)「わたしは日頃から頭髪・服装指導ができています」「わたしは掃除監督として時間いっぱい清掃指導を行っている」 (生徒)「わたしは掃除時間を守って、掃除をしている」「わたしは本校の頭髪・服装規定を守っている」「わたしはまじめに授業に取り組んでいる」 (保護者)「服装・頭髪指導、交通安全指導などの生徒指導を適切に行っている。」「わたしの子どもは本校の服装規定を守っている」 上記学校評価の平均点	A	B	C	3.3(B)	個々の先生方には、学科・学年部・クラスそれぞれの立場で生徒指導を行って頂いた。生徒会の活動や各種委員会では生徒が主体の活動になるような環境を用意しようと努力をして頂いた。一方で、今年度の生徒指導に関わる生徒や保護者への対応については関係の先生方のスケジュール調整ができず、可能な範囲での対応という状態で進めざるを得なかった部分があった。その結果として、それぞれの先生方の動きの中で、生徒部として全体での協力体制をうまく作れなかった事が反省点と考えている。次年度に向け生徒部およびその関係の先生方との協議の時間をどのように作るかが課題になると感じている。	B
	2	魅力ある学校を目指した生徒会活動の推進	・体育祭・翔陽祭で地域の方々との積極的な連携を目指す。 ・部活動や各イベントでの身だしなみや礼儀作法等、印象の良い行動ができるよう指導する。	(生徒)「わたしは学校内であいさつをしている」「わたしは正しい言葉使いをしている」「わたしは体育祭、翔陽祭など、本校の学校行事に満足している」 (保護者)「本校の部活動は、活動内容や時間などからみて適切に行われている。」「保護者の学校行事などのPTA活動への参加は活発である。」「わたしの子どもは挨拶・返事・正しい言葉遣いができる。」「子どもを益田翔陽高校に進学させて良かったと思う。」 上記学校評価の“全体”の平均点	90%以上	80%以上	80%未満	90(A)	生徒会活動および部活動について良い結果と判断している数字であると思う。特に「翔陽への進学」についての質問への肯定的意見が、保護者が96.7%(3.7)の数値である一方で、生徒が94.1%(3.5)の数値になっている。生徒より保護者の方が若干多い。回答の母数が異なるが、保護者は生徒以上に学校活動の効果を感じていることを示すものであると判断している。肯定的な意見を魅力ある学校と判断していると解釈するのであれば、取り組みによる魅力の発信としては良かったと判断する。ただ「外からどう見えたか」とは別に、学校内の指導において服装指導や礼儀指導については課題が残るアンケート結果となっており、それらがそのまま次年度への課題となっている。	A
進路指導部	1	進路保障	求人情報・進学情報を迅速にクラスに伝達する。	進路情報が迅速に伝わったという教員・生徒の割合	95%以上	90%	90%未満	C	進路だよりやホームページで進学・就職の情報をクラスに伝達している割合平均84.5% 昨年度より数値は上がったが、情報伝達の面で後手にまわった。今年度求人票システムを導入し、改善に取り組んだ。情報誌等の発信を来年度は定期的に取り組んでいく必要がある。	C
	2		生徒が希望する受験先を確保する。	希望する企業・学校に内定・合格することが出来たという三年生の割合	95%以上	90%	90%未満	A	第1志望先への合格率96.3% 学年部、学科、進路と連携をとり、3年生全体での第1志望先の合格率は以上の様になった。また次年度、担任団が変わった際にも、引き続き連携し、より良い成果を目指していく。	A
	3		県内企業への就職率の向上と県内大学への進学者の促進	島根県内就職者の割合 県内大学への進学者の増加	80%以上	70%	70%未満	C	県内就職者R5 61.5%→ R6 60.2% 県内大学R5 2人 → R6 3人 近年に比べては、県内就職率の数値は増加傾向にある。県内企業と生徒を繋げる活動をより良いものにしていく必要がある。 進学者は、この先数年内5名を目標にしている。昨年度より1名増えた実績を活かし、引き続き進路の幅を増やす指導を意識していく。	C

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
保健相談部	1	健康教育の推進	講演会の実施や保健通信を通じて、保健情報や健康情報を発信する。	保健・教育相談に関して、実態に即した情報が発信されている、学校は保健通信などで感染症、健康診断、SC来校案内などの保健情報を提供していると答えた教職員、生徒の割合。	A 90%以上	B 80%以上	C 80%未満	A	教職員88%、生徒92.5% すべての生徒・教職員が安心、安全に学校生活が送れるよう、今後も担任・科・関係者と連携に努め情報を発信していきたい。	A
	2	清掃活動の徹底	生徒保健委員会からの呼びかけもふまえ、時間いっぱい清掃することを徹底する。	「わたしは掃除監督として時間いっぱい清掃指導を行っている」「わたしは清掃時間を守って掃除している」と答えた教職員・生徒の割合。	90%以上	80%以上	80%未満	A	教職員86.0%、生徒97.7% 教職員と生徒との認識にずれがある。生徒が主体的に清掃活動に取り組むよう、引き続き指導の徹底をお願いしたい。	A
	3	相談活動の充実	校内での情報共有に努め、必要に応じて保護者・外部機関との連携をはかり、相談体制や支援体制を充実させる。	「生徒の病気・けがや早退等について家庭連絡を行っている」「生徒の心や体の悩みについて応じてくれている」と答えた保護者の割合。	90%以上	80%以上	80%未満	B	保護者86.15%(90.6%、81.7%) 家庭への連絡については一定の評価を得ている。生徒の心と体の悩みについて、SCなどの協力も得ながら取り組んでいきたい。	B
図書研修部	1	図書館の利用促進	利用しやすい環境を整備し、広報活動を充実させる。	利用しやすいと答えた生徒・教職員の割合	90%以上	75%以上	75%未満	B	昨年度より週1回、朝読書の時間に各学年を出張図書館で巡回することや、図書館だよりを学期に1回、新着図書案内を毎月発行しているが、数値が下がった原因の1つは、読書感想文の提出が任意になったことで、生徒が積極的に情報を求める必要性が無くなったことが考えらる。今年度から始めた「読書感想文の書き方講座」に加えて、受験にも役立つ小論文対策講座なども含めて、読書に対する魅力ある企画を充実し、多くの生徒の参加を促したい。	B
	4	人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの特徴に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	学校は人権について考える機会を提供していると答えた生徒・教職員の割合	90%以上	75%以上	75%未満	A	各学年部担当者が中心となり、各クラスの実態を踏まえた指導内容を考えて実施することができた。次年度は生徒の人権感覚がさらに身につくように指導方法の工夫・改善を進めるとともに、学期に1回のホームルーム活動以外にも人権について考える機会を設けたい。	A
寮務部	2	規律ある寮生活を確立する。 1. 時間を守る 2. 整理・整頓をする	寮の生活時程に従って行動する中で清掃および片付けを丁寧にするように指導する。 関係者間での連携を密に取り、指導を徹底する。	寮生活において時間を守り、整理・整頓ができたと答えた生徒、およびその指導ができたと答えた教員の割合。	95%	90%	90%未満	C 生徒94.7 教員56.7	生徒の自己評価では高い数値が出ているが、教員の目からはできていない部分が多い。外部舎監の方々とも連携し、掲示やプリント配付、対面での指導等、様々な形で生徒に呼びかけ、また多くの先生方から指導をいただけるような環境を作り、自他ともに満足できるような状況に持っていけるように改善を図っていきたい。	C

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
事務部	3	安全・安心で良質な教育環境の整備	教職員の負担軽減に繋がる業務改善の取組や施設設備の適切な保守管理等を通じて、生徒及び教職員の活動をサポートする	安全・安心で良質な教育環境の整備が行われていると答えた生徒・教職員の割合	A	B	C	A	修繕の必要な箇所や整備要望箇所を日常的によく観察し、適切に優先順位付けを行って一つ一つ対応していく必要があるが、施設設備の老朽化が予想以上に早いことから、予防的な対策の実施が喫緊の課題となっている。 具体例として、令和6年度は体育館の手すり落下防止対策や老朽化したワイヤの交換、通学路の枯木伐採による安全確保、トイレ洋式化、排水詰まり解消等への対応にあたった。 令和7年度は、校内に残る全ての蛍光灯のLED化工事や、工業棟実習室のエアコン整備等を実施予定。	A
					80%以上	60%以上	60%未満			
農場部	3	魅力ある農業教育の実践	地域連携を推進し、地域産業を担う生徒の育成のための事業を行う。	地域連携・貢献事業の実施回数 (月平均3回以上) 実施回数 36回以上(A)24回以上(B)、24回未満(C)	36回以上	24回以上	24回未満	A 36回以上	今年度も多くの事業を実施することができた。 今後も地域連携・貢献事業を推進して、魅力ある農業教育を行っていきたい。	A
電子機械科	2	人間性豊かな生徒の育成	あいさつや言葉使い、行動など基本的な生活習慣を身につけ、整理・整頓・清潔・清掃・躰(身を美しく)を意識し、安全で効率的な作業を心掛けるように図る。	①あいさつや言葉使い、行動などを意識して取り組むことができた生徒の割合 ②実習棟、更衣室、教室等の状況及び整理・整頓・清潔・清掃・躰に関して意識して取り組み実行できた生徒の割合	90%	75%	75%未満	A(97.2%)	1年生92.9%、2年生100%、3年生95.2%、全体97.2%と十分満足する値であるが、昨年度よりー0.8%減少している。1年生においては引き続き意識づけをおこない、2年生においては100%であるが、中には意識不足の生徒も見られるので、さらに意識して行動できるように声がけをおこなう必要がある。	A
	1	進路意識の向上	進路実現のため、生徒が主体的に資格検定やなどに取り組めるように学習指導を充実させる。	資格検定に向けて積極的に取り組み、計画的に学習に取り組んだ割合	85%	70%	70%未満	B(77.0%)	検定資格の合格率としては、60%後半から100%のものとある。取組み状況としては、1年生57.1%2年生83.8%、3年生80.0%全体として77.0%であった。1年生においては、資格、検定の情報が少なく徹底ができなかった。2・3年生は、多くの生徒に意識づけができたが十分満足するには至らなかった。引き続き情報を発信するなど継続的に取り組んでいく必要がある。	B
	3	充実した工業教育の取り組み	地域連携や他学科と連携した取り組みの実践	地域や関連企業、他学科と連携活動した回数	30回以上	25回以上	25回未満	A(31回)	実施した内容から、地域や関連企業とは24回、他学科とは7回程度の連携活動が行われた。昨年度から継続している内容では、多くの回数連携が見られたが、それ以外での連携の回数が少なかった。課題研究において、他科との連携活動が行われているので、今後は他科との連携回数の増加や内容を一層充実していく必要がある。また、連携活動の取り組みを多くの方に知ってもらう必要がある。	A

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
電気科	1	工業人としての心構えの育成	みだしなみ、頭髪及び授業の準備、レポート等の提出期限を徹底する。	みだしなみ検査で規定が守れている生徒の割合	A 90%以上	B 85%以上	C 85%未満	A	昨年度よりも規定を守っている生徒が7%減少した。日々の指導を徹底し、これ以上、下がらないようにしたい。	A
				期限内にレポート提出した生徒の割合	90%以上	85%以上	85%未満	B	今年度は、レポートの期限を守らない生徒が、どの学年も増えている。特に1年生は、提出しない生徒が固定化されて、改善が中々見られない。継続して指導していく。	B
	2	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する	資格、検定に向けて真剣に取り組んだ生徒の割合	85%以上	75%以上	75%未満	A	二年生で全員受験する、第二種電気工事士は、100%の合格で、全員取得した。第一種電気工事士も88.2%の合格で、電験三種に合格した生徒もいた。資格取得に挑戦する生徒を今後も増やしていきたい。	A
	3	魅力ある工業教育の実践	地域連携や他学科と連携した取り組みを推進する。	実施回数 25回以上(A) 15回以上(B) 15回未満(C)	25回以上	15回以上	15回未満	A	今年度も、電気ボランティアで老人宅や公民館に出かけ、エアコン、換気扇等の清掃を行った。連理松センターでのイルミネーションの設置などを行った。中学校2校に出前授業を行った。サン電子工業様の出前授業をして頂くなど地域交流を行った。課題研究でも、地域交流を目指したものが増えてきている。他学科との交流も含め、取り組みたい。	A
生物環境工学科	3	生徒の進路意識の向上	農業・関連産業に興味・関心を高める学習を展開し、地域を担う生徒を育成する。	関連産業への進学・就職の割合が 60%以上(A) 50%以上(B) 50%未満(C)	60%以上	50%以上	50%未満	B 52.5%	達成値はBであったが、地元就職者が公務員を含め62.5%いた。農業の専門性を活かした進路先を増やすための取り組みを継続して行きたい。	B
	2	地域交流を通じて、社会に通じる人間力の育成	学校生活、地域交流活動を通じて、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなどが向上するように指導する。	生徒の学校評価アンケートの肯定的回答の結果で、学校生活、地域交流活動を通じて、積極的な挨拶が出来るようになった、身だしなみ、言葉遣い気をつけ行動したと答えた生徒の割合	90%以上	80%以上	80%未満	A 92.5%	生活アンケートの結果は昨年度よりも4.3%減少している。学年が進むと減少しているのので、各事業を実施することに指導することで、生徒の意識の向上をはかりたい。	A
総合学科	1・3	授業での地域交流の推進 生徒の進路意識の向上	総合学科の特徴的な授業で、生徒に様々な人や場所、産業とのつながりを積極的に持たせ、進路意識の向上を図る。	○下記の特徴的な授業や活動が、進路の方向性を定めるのに役立ったと答えた生徒の割合 ・1年生 産業社会と人間・食品と福祉 ・2、3年生 総合的な探究の時間・系列の授業 ○連携の授業を行ったと答えた教員の割合	90%	80%	80%未満	生徒A 94% 教員A 100%	産社、専門授業、総探、家庭クラブ活動において約60回も地域と連携し、3年生の課題研究においては生徒の70%が地域とのつながりをもち研究を進め、より深い研究となった。生徒のもこの経験が進路意識の向上につながったと評価しているため、今後も地域連携を大切にしていきたい。連携のための予算や、調整があまり負担なくできる方法を模索したい。	A
	2	社会に通じる人間力の育成	学校生活、地域交流活動を通じて、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなどが向上するように指導する。	各学期に定めた段階的な目標を守ることができたと答えた生徒、意識して促すことができた と答えた教員の割合。 1学期…制服の着こなし。挨拶。 2学期…清潔な頭髪。言葉遣い。 3学期…1、2学期の改善点	90%	80%	80%未満	生徒A 90.3% 教員B 80%	生徒は、あいさつはきちんとできている、また、校外活動では、きちんと服装を整えているが、校内では3学期になるにつれ服装の乱れがある。教員も意識をして注意喚起していると思うが、やはり、学校全体で明確な指導方針を持ち、教員の意識を統一して、同じラインでの指導をする必要性を感じている。	A

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
1 年 学 年 会	1	充実した高校生活を送る	学習活動、資格、検定試験、部活動、学校行事等に積極的に取り組むよう指導をする。	「学習活動・資格・検定試験・部活動・学校行事等に積極的に取り組み、充実した高校生活を送ることができている」と答えた生徒の割合。	A 95%以上	B 80%以上	C 80未満	B	部活動の加入率をもう少し上げる必要があるが、球技大会・体育祭・翔陽祭などの行事には積極的に参加していた。また、資格・検定等に対して積極的にチャレンジする生徒が増えてきている。引き続き声掛けをしていきたい。	B
	1	基本的生活習慣を身につけ、基礎的な人間力を育成する。	①時を守り 始業のチャイムは自席に着席した状態で聞かせ、提出物の期限を守らせる。 ②場を清め 教室内の整理整頓、清掃にきちんと取り組むよう指導する。 ③礼を正す 語先後礼の励行	「始業チャイムを自席で着席して聞くことができた」「提出物を期限内に提出した」と答えた生徒の割合。	95%以上	80%以上	80未満	B	学校生活にも慣れが生じてきており、全員が「始業チャイムを自席で着席して聞く」ことができない状況である。自ら状況判断できるよう今後も指導を続けていく必要がある。	B
				「教室内の整理整頓・清掃にきちんと取り組んだ」と答えた生徒、及び「教室内の整理整頓・清掃にきちんと取り組んでいた」と答えた教職員の割合。	95%以上	80%以上	80未満	B	「帰宅時は机・ロッカーの上には何も置かない」状態については、徐々にできるようになってきたが、机の中やロッカーの中の整理整頓まではできていない。今後も継続的に指導をしていく必要がある。	B
2 年 学 年 部	2	基本的生活習慣を育成し、明確な進路目標を設定させる。	・日常の服装・頭髮の基準を守り、挨拶や言葉遣いがしっかりできるよう指導する。 ・進路学習を通して、具体的な進路目標を設定させる。	・日常の服装・頭髮の基準が守られており、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできていると答えた教職員・保護者の割合。 ・具体的な進路目標を設定した生徒の割合。	95%以上	80%以上	80%未満	保護者： 服装規定 3.6 挨拶等 3.2	二つの異なる項目を一つの基準で評価するように設定してしまい判断ができなかった。 評価ができるようにアンケート項目を見直さなければならない。 頭髮・服装について、ほとんどの生徒は守られており、守られない生徒には担任を中心に継続して指導している。これを学年部全体で取り組む態勢を整えたい。 進路目標についても、担任・科を中心に指導・相談をしているところで、これも学年部で取り組めるようにしていきたい。	B
	2・3	インターンシップの充実	・事前指導において地元企業の魅力を伝える。 ・インターンシップ活動を通じて地元で働くやりがいを学ばせる。	地元企業の魅力や地元で働くことの意義を感じることができた生徒の割合。	95%以上	80%以上	80%未満		明確に評価できるアンケートや振り返りを行っておらず、評価ができなかった。 学年部全体として、各科や進路指導部と連携を図りながら取り組んでいきたい。	B
3 年 学 年 会	1	進路目標の実現に向けた自己指導能力の育成	○朝礼、授業開始時間や授業関係・進路関係の提出物の期限を守るよう指導する。 ○学習環境の整理整頓や日常の身だしなみを整えることができるよう指導する。 ○さわやかな挨拶や丁寧な言葉遣いや態度ができるよう指導する。	生徒による「学校生活に関するアンケート」において、そう思う・ややそう思うと答えた生徒の割合	90%以上	80～89%	80%未満	A(94.96%)	①「わたしは始業時のチャイムを自席に着席して聞いている。」(95.3%-2.7%)「わたしはプリントなどの提出物を期限を守って提出している。」(96.9%+2.0%)②「わたしは日頃から本校の頭髮・服装規定を守っている。」(88.2%-8.0%)③「わたしは学校内であいさつをしている。」(99.2%+1.2%)「わたしは正しい言葉遣いをしている。」(95.2%+2.6%) 上記の平均は94.96%であり、評価としては十分満足できる内容であった。ただ、個別にみると「わたしは日頃から本校の頭髮・服装規定を守っている。」が88.2%と低く、生徒が自覚している通り、教職員も日頃の指導を続けていく必要がある。	A
	3	望ましい勤労観の育成と進路指導の充実	○自身の将来の可能性の広がりを実感させ、広い視野を持たせる進路指導 ○多様化する志望に対し、個々に応じた丁寧な進路指導	就職および進学の第1志望先への合格率	100%	95～99%	95%未満	B(96.26%)	3年学年会、各科、進路指導部と連携をとり、就職および進学の第1志望先への合格率は96.26%であった。(129名/134名)不合格の生徒に対しても個別に丁寧な進路指導を行い、進路を決定し、最終的に100%の生徒が進路を決定した。	B